

アムド・チベット語におけるヤクの呼び分け ——青海省ツェコ県の事例を中心に——

海老原 志穂

How yaks are called in Amdo Tibetan? —Case study in Tsekog, Qinghai

EBIHARA Shiho

Abstract : Generally, individual ethnic groups have folk vocabularies that are deeply related to their lives. For example, Inuit is known to have hundreds of words for categorizing snow, while Japanese is known to have different words for the same fish at different stages of its growth. These lexical categorizations reflect the field in which each ethnic group takes a great interest. In the case of Tibet, Tibetan pastoralists have a systematic way of referring to livestock according to sex, age, role in herds, physical features (i.e., colors and patterns of fur, horns etc.), and behavior. Though Tibetan has an extensive vocabulary for livestock, as far as I know, only a few detailed studies have yet been conducted on it. This paper applies linguistic analysis to data from Tsekog (rtse khog) to reveal the systematic terminology for cognizing yaks in Amdo Tibetan. Through this systematic terminology, we can begin to understand the cognition of Tibetan speakers, accumulated in a long time of the traditional pastoral life.

关键词：牦牛，安多藏语，泽库，牧畜业，民俗词汇

Keywords: yak, Amdo Tibetan, Tsekog (rtse khog), pastoralism, folk vocabulary

1 はじめに

東北チベットにあたるアムド地域では、伝統的に、農耕、牧畜が生業として営まれている。牧畜民はヤクをはじめ、羊、馬、ヤギなどの家畜を飼い、それらの家畜の肉、乳、毛、皮、糞、またその労働力を利用して生活している。本稿では、この地域で話されるアムド・チベット語における、ヤクを呼び分ける語彙について記述・分析を行う。

ヤクを含めた家畜に関する語彙は、アムド・チベット語における民俗語彙であると考えることができる。民俗語彙とは各地域の文化や環境に深く関係し、細かい分化がみられる語彙のことである。日本語における出世魚や雨に関する語彙、エスキモー語における雪に関する語彙などが有名な例である。

家畜に関する表現はアムド・チベット語における民俗語彙であるにもかかわらず、これまでは一部の例外（Chos bstan rgyal 2014）を除くと、文法書（周毛草 2003、海老原 2008他）やチベット伝統語彙集（Gangs ljongs shes rig nor bu'i gling 編 2013、Tshul khrims blo gros 主編 2016 他）などで断片的な記述が行われてきただけで、筆者の知る限りでは体系的かつ包括的な記述はほとんど行われてこなかった。筆者はその記述を補完するべく、今まで研究を進めてきており、数回の口頭発表を行った他、海老原（2016）、海老原（2017）でもその一部を発表してきた。

本稿では、まず、アムド・チベット語、および、調査と調査地の概要を述べる。その後、これまでの研究成果をふまえ、家畜の中でも特に重要なヤクに関するアムド・チベット語の語彙体系を、中国青海省黄南チベット族自治州ツェコ県における調査結果にもとづいて、できる限り包括的にまとめることを試みる¹。

2 アムド・チベット語と調査の概要

2.1 アムド・チベット語

アムド・チベット語は、中国青海省の全域（青海省南部の玉樹チベット族自治州を除く）、甘粛省南部の甘南チベット族自治州、同省の北東部に位置する天祝県、そして四川省の^{アバ}阿壩チベット族チアン族自治州の一部の県および^{カンゼ}甘孜チベット族自治州の一部の県で話される（図1を参照）、チベット諸語（Tibetic

図1 アムド・チベット語が話される地域（黒塗り）とツェコ県（白点）



languages) の一種である。この地域を包括して、「アムド地域」と呼ぶ。

総体としてのチベット諸語は、古チベット語に由来する言語群を指す (Tournadre 2014)。地理的には中国の他、インド、ブータン、ネパール、パキスタン、ミャンマーでも話されている。系統的にはシナ・チベット語族、チベット・ビルマ語派、ヒマラヤ語支に属する。

チベット諸語は、チベット文語を通じた統一性などから、伝統的に「チベット語」という1つの言語であるとされ、西部古方言、西部改新的方言、南部方言、中央方言、カム方言（以下、カム・チベット語）、アムド方言（本稿で扱うアムド・チベット語を指す）の6方言に（西 1986）、またはカム方言を2つにわけ

¹ 本稿は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築」(LingDy 3)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「“人間一家畜一環境をめぐるマイクロ連環系の科学”の構築～青海チベットにおける牧畜語彙収集からのアプローチ」、科研費基盤研究(B)「チベット牧畜民の生活知の研究とそれに基づく牧畜マルチメディア辞典の編纂(代表者:星泉、2015-2017)、および、科研費若手研究(B)「東西方言から見たチベット語の基層の研究」(代表者:海老原志穂、2014-2018)、の研究成果の一部である。なお、本稿の内容は、第4回国際若手チベット学セミナー(ISYT4、2015年9月9日、ライプツィヒ大学)、フィールド言語学ワークショップ(2016年3月24日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)、第14回国際チベット学会(IATS14、2016年6月24日、ベルゲン大学)で行った発表内容に改訂を加えたものである。発表の際に多くの方から有益な質問やコメントをいただき、本稿執筆の際にも参考にさせていただいた。また、本稿執筆の際に、星泉教授からデータの提供および分析への助言を受けた。なによりも、ツェコ県での調査中にR家、K家の皆様には大変お世話になった。ここに御礼を申し上げる。

て7方言に (Bielmeier in preparation) に分類できると考えられてきた。しかし、各チベット語 (伝統的な分類では「方言」) の話者が相互に意思疎通ができないという事実や、研究の進展によって言語間の差異が明らかにされてきたことなどをうけ、主に言語学者によって「チベット語」の代わりに「チベット諸語」という呼称が使用されるようになっている (Tournadre 2014他)。Tournadre (2014: 118) はチベット諸語の中に50以上の言語があると主張しており、アムド・チベット語はそのうちの1つとされている。

アムド・チベット語は地域的には広範囲に広がるが、カム・チベット語などと比べると、内部の差異は比較的小さいとされる (格桑居冕・格桑央京 2002: 173)。本稿のテーマであるヤクの呼び分けの語彙については、筆者が青海省海南チベット族自治州共和県の半農半牧方言、ゴロク・チベット族自治州の牧区方言について調査を行った経験から述べると、一部の単語が異なるだけで、体系や語彙の多くの部分は共通している。

2.2 調査と調査地

本稿の記述は、2014年8月および2015年8月に、青海省海南チベット族自治州ツェコ (沢庫、WT²: rtse khog) 県の牧畜地域において行った調査で得たデータを整理したものである。調査はアムド・チベット語による説明の他、イラスト、写真、動画を用いた聞き取り調査、自然発話の観察によって行った。

調査地であるツェコ県の大部分の地域は海拔3,500m以上である。当地は降水量が少なく、寒さと乾燥のため、多くの地域で農耕は困難であり、人々は、ヤク、羊、馬、ヤギの牧畜を生業としてきた (泽库县志编纂委员会编 2005: 1-2)。現地のチベット人が母語として話しているのはアムド・チベット語のうちの牧区方言である。

3 ヤクの呼び分けの語彙

ヤク (学名は *Poephagus grunniens* または *Bos grunniens*) は、青藏高原を中心に標高2,000-5,000mの寒冷な土地に生息する長毛の牛である。野生種であり、より体格の大きい野生ヤク (学名は *Bos mutus* Prze) が家畜化されたものである

² WT (Written Tibetan) には、チベット文字のワイリー転写表記を示す。正確には拡張ワイリー転写表記を採用している。

(Wiener et al. 2003: 1)。

「ヤク」(英語では yak) という単語は、もともとチベット語から日本語や英語に取り入れられた借用語である。日本語や英語では「ヤク」(yak) という単語がヤクの総称となっているが、アムド・チベット語で「ヤク」(WT: g.yag) といった場合には「性成熟した雄のヤク」のみを指す。アムド・チベット語におけるヤクの総称は、nor (WT: nor) または norhnak (WT: nor g.nag) という。nor とはチベット語で「宝」という意味の単語でもある。このことから、家畜が財産である牧畜民の生活で、ヤクが昔から重要な存在であったことがうかがわれる。

チベット人たちは、この重要な家畜であるヤクを管理するために、ヤクを呼び分ける様々な語彙を持っている。具体的には、年齢、雌雄の他、毛色、模様の位置、角の有無や形状、体の大きさ、群れの中での役割、性格などで一頭一頭のヤクを呼び分ける。一般的には、色と角の有無を組み合わせた表現で呼ばれるが、それ以外の複数の特徴も組み合わせた表現で呼ばれることもある。

まず、年齢、雌雄 (§3.1)、毛色 (§3.2)、角の有無や形状 (§3.3)、模様の位置 (§3.4)、体の大きさ (§3.5)、群れの中での役割 (§3.6)、性格 (§3.7) それぞれについての表現を記述し、その後、複数の特徴の組み合わせ方 (§3.8)、そして、呼び分けられる原理 (§3.9) について考察したい。§3.1から §3.7は、おおよそ §3.8に示した順番にしたがって並べてある。

3.1 年齢、雌雄に関わる表現

ヤクは生まれてから 6 歳まで毎年、年齢による名称が変わる。また、各年齢毎に、総称、雄、雌の名称が異なる。これらの名称を表 1 にまとめた。

仔ヤクは生まれてから 1 ヶ月ほどは草は食べず、母ヤクの乳だけを飲んで育つ。生後20日～1 ヶ月の仔ヤクは特に wihtaŋ (WT: be'u rting) という名称で呼ばれる。仔ヤクは通常、4 月から 5 月にかけて生まれるが、少し遅れて 6、7 月に生まれるものもある。6、7 月に生まれた、他より体の小さい 0 歳ヤクは特に htaŋwi (WT: rting be'u) と呼ばれる。

3 歳以上のヤクの総称は、歯の本数にちなんだ名称がつけられている。3 歳の名称 s'ohŋi (WT: so gnyis) は、「二本歯」(s'ho が「歯」、hŋi が「二」という意味である。3 歳のヤクは前歯が二本生えることからこのように呼ばれる。同様に、4 歳の s'obzə (WT: so bzhi)、5 歳の s'otək (WT: so drug) はそれぞれ「四本歯」、「六本歯」という意味である。6 歳以上は前歯 8 本が全て生えそろって

表1 ヤクの年齢、雌雄に関わる表現

年齢	総称	雄	雌
0 歳	wi, wilə (WT: be'u, be'u lu)	howi (WT: pho be'u)	mowi (WT: mo be'u)
1 歳	jarə (WT: ya ru)	hojar (WT: pho yar)	mojar (WT: mo yar)
2 歳	ɲipcə (WT: nyis bkru)	hojar ɲipcə (WT: pho yar nyis bkru)	mojar ɲipcə (WT: mo yar nyis bkru)
3 歳	sʰohɲi (WT: so gnyis)	hojar sʰohɲi (WT: pho yar so gnyis)	mojar sʰohɲi (WT: mo yar so gnyis)
4 歳	sʰobzə (WT: so bzhi)	hjagə, hjəgə (WT: g.yag gu または g.yu gu)	tʰuma (WT: thul ma)
5 歳	sʰotək (WT: so drug)	hjagə, hjəgə (WT: g.yag gu または g.yu gu)	tʰuma (WT: thul ma)
6 歳	kʰagan (WT: kha gang)	hjak (WT: g.yag)	ndə (WT: 'bri)

るため、kʰagan (WT: kha gang) 「生えそろった歯」(kʰa が「口」、gan が「満ちた」という名称で呼ばれる³。hjak (WT: g.yag)、ndə (WT: 'bri) はともに6歳以上についても用いることができる。hjak、ndə のうち特に7歳以上のものを指す場合には、hjakrgan (WT: g.yag rgan)、ndərgan (WT: 'bri rgan) という表現が用いられることもある。hjak、ndə が年齢以外の意味を指すこともある。hjak は「去勢された雄ヤク」や「荷駄用のヤク」を、ndə は「仔ヤクを生める年齢になった雌ヤク」を指す場合に用いられることがある。

3.2 体全体の毛色に関わる表現

ヤクの体全体の毛色にはいくつかの種類がある。まず、表2に基本色を示す。基本色には7種類がある。基本色は全て1音節を重複した2音節の形で表される。dzardza と karhkar は重複された際、1音節目と2音節目の間にそれぞれ r、h という子音が挿入される。

dzardza と rokrok はともに黒ではあるが、dzardza のほうは口が白いという

³ ちなみに、ヤクの前歯は下顎にしか生えず、上顎には生えない。横の歯は上下に生え、横の歯だけで全て生えそうと16本になる。

表2 ヤクの体全体の毛色の基本色の表現

dzardza (WT: rgya rgya)	全身が黒く（茶色っぽい黒色）、口だけ白い（角がある）
rokrok (WT: rog rog)	全身が黒い（角がある）
shersher (WT: ser ser)	黄色（実際には、灰色っぽい黄色。グレイッシュイエロー）
ŋoŋo (WT: sngo sngo)	灰色
karhkar (WT: dkar dkar)	白
te ^h ate ^h a (WT: khra khra)	白と黒のまだら
seŋe (WT: sre sre)	白、黒、灰色っぽい黄色、灰色の4色のまだら

特徴も合わせもっている。

dzardza、rokrok とともに「角がある」という角に関する特徴も含んでいる点
は他の基本色と異なる。他の基本色の場合には、角の有無は §3.3 で示す表現
を組み合わせる必要がある。この2色はヤクの前種である野生ヤクの毛色
でもある。そのため、「角をもつ」という野生ヤクの特徴も含んだ表現になっ

図2 ヤクの体全体の毛色の基本色の表現⁴

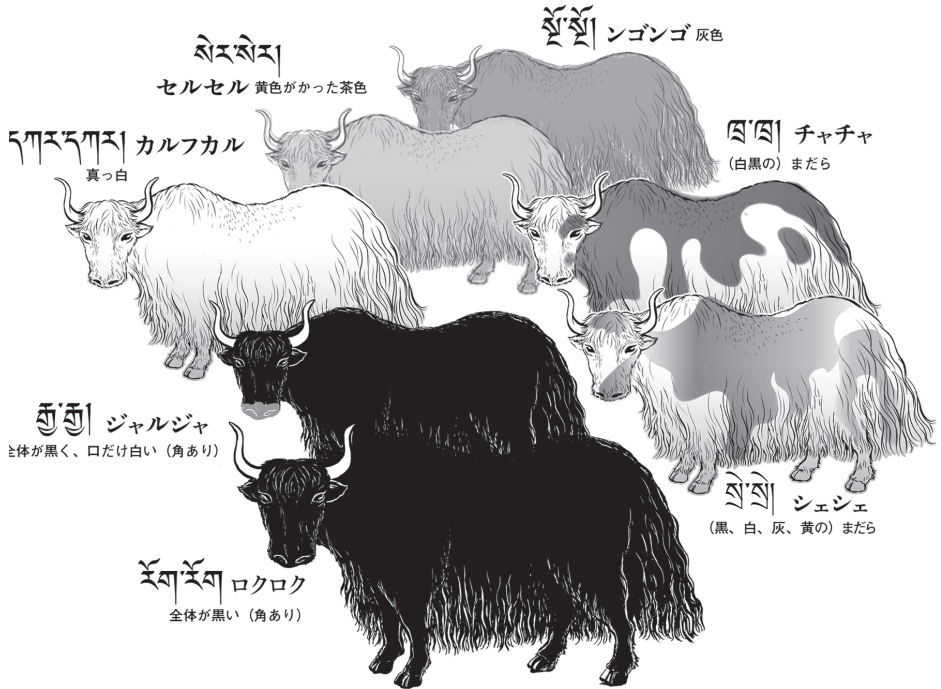


表3 ヤクの体全体の毛色の複合色の表現

基本色	複合色
dzadza	dza + s ^h er (黒+黄)「黄色っぽい黒」
s ^h ers ^h er	s ^h er + nak (黄+黒)「黒っぽい黄色」、s ^h er + kar (黄+白)「白っぽい黄色」
ŋoŋo	ŋo + kar (灰+白)「白がかった灰色」、ŋo + nak (灰+黒)「黒っぽい灰色」
karhkar	kar + tɛ ^h a (白+まだら)「白っぽい白と黒のまだら」
ʒeʒe	ʒe + tɛ ^h a (4色のまだら+まだら)「白っぽい4色のまだら」

ているのだと思われる。

7色の基本色のイラストを図2に示す。ただし、モノクロのため、s^hers^her「黄色」、ʒeʒe「白、黒、灰色っぽい黄色、灰色の4色のまだら」に関しては実際の色とは異なることを断っておく。

基本色のうちの1音節同士を組み合わせた複合色も存在する。表3には各基本色ごとに、その基本色を用いた複合色を示す。

3.3 角の有無・形状に関わる表現

ヤクは雌雄を問わず、角の生えるものと生えないものが存在する。角の生えるものは0歳の仔ヤク(wi)の頃から生え始める。角のあるヤクとないヤクは呼称で言い分けることができる。それぞれ§3.2にて述べた基本色の第1音節に-lan「角あり」または-^ho「角なし」という意味の接辞を付加する(図3右下の囲みの中を参照)。例えば、角なしのkarhkarであればkar-^ho(白-角なし)となる。

§3.2でも述べたように、dzardzaとrokrokはともに、「角がある」という特徴を含んだ表現であるので、dza-lanとrok-lanという表現は存在しない。「角がない」という表現は可能である。「角のない」dzardzaはdza-^hoとなる。ただし、「角のない」rokrokはrok-^hoとは言わずnak-^hoと表現する。

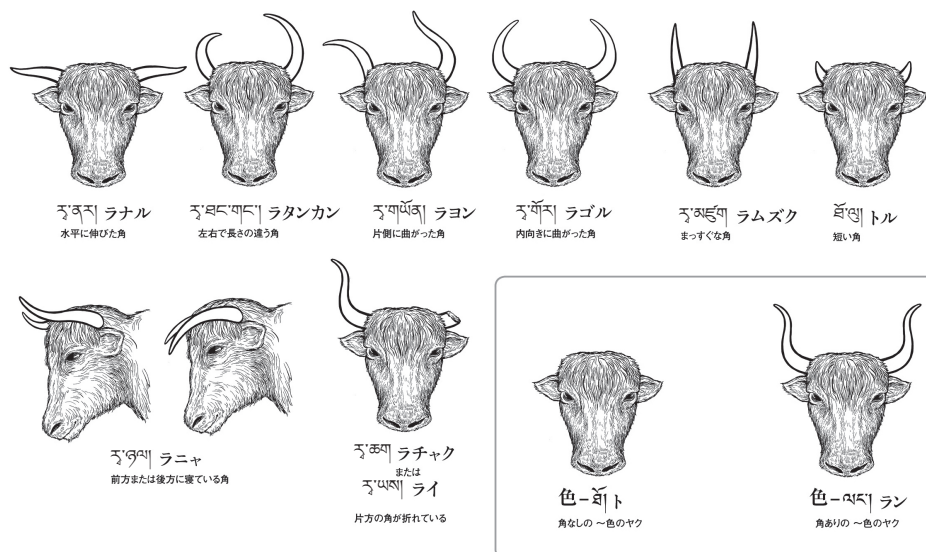
角があり、さらに角の形が特徴的である場合にはそれぞれ個別の名称がある。図3の囲み以外の部分にその主なものを示した。raとは「角」という意味の単語であり、そのraの後ろに、mdzak「立っている」(または「指」の可能性もある)、gor「丸い」、hjon「曲がっている」、^han^hkan「長さが違う」、nar「水

⁴ 図2、3、4のイラストはいずれも漫画家の蔵西(くらにし)氏による。

表4 ヤクの角の有無・形状に関わる表現

tholə (WT: tho lu)	短い角
ra mdzək (WT: rwa mdzug)	垂直方向にまっすぐ伸びた角
ra gor (WT: rwa gor)	内向きに曲がった角
ra hjon (WT: rwa g.yon)	片側に曲がった角
ra thəŋkaŋ (WT: rwa thang gang)	左右で長さの違う角
ra nar (WT: rwa nar)	水平方向にまっすぐ伸びた角
ra tɕʰak (WT: rwa chag)、ra ji (WT: rwa yas)	片方の角が折れている
ra ŋa (WT: rwa nyal)	寝ている角
-laŋ (WT: lang)	角あり
-tho (WT: tho)	角なし

図3 ヤクの角の有無・形状に関わる表現



平方方向にまっすぐ、tɕʰak「壊れた」、ji「片方」、ŋa「寝ている」という角を形容する表現が置かれ、角を修飾している。

これらは -laŋ「角あり」、-tho「角なし」とは異なり、接辞ではないため、基本色の1音節には接続しない⁵。これ単独でもヤクを指すことが可能であり、さらに、§3.8に示すような複数の特徴を組み合わせた場合にも使用することができる。

ヤクの角の有無と形状に関わる表現を図3にイラストで示す。

3.4 体の模様の位置に関わる表現

§3.2では、ヤクの毛色の基本色について説明した。その中には *te^hatɕ^ha* 「白と黒のまだら」といった模様に関わるものも含まれていたが、体の一部に白や黒の模様がある場合には、模様の位置による表現がある。

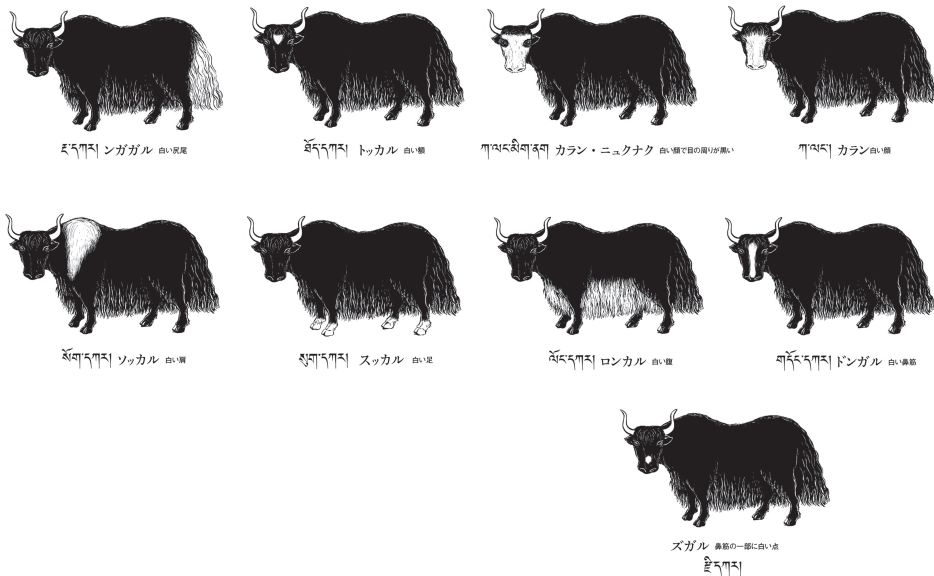
ka-laŋ という表現の *ka-* は、「白い顔（顔だけ白い）」という意味を表す。基本色の1音節の位置に現れ、*-laŋ* 「角あり」または *-tʰo* 「角なし」といった、角の有無の特徴を伴って発話される。*ka-* 単独では発話不可能である。*ka-* 角の有無のうち、パンダのように目の周囲だけが黒いヤクは、*ka-* 角の有無 *ŋək nak*

表5 ヤクの体の模様の位置に関わる表現

名称	グロス	意味
<i>ka-</i> 角の有無 (WT: <i>ka</i>)	白い顔ー角の有無	顔が白い
<i>ka-</i> 角の有無 <i>ŋək nak</i> (WT: <i>ka</i> ~ <i>mig nag</i>)	白い顔ー角の有無 目 黒い	顔が白く目の周りが黒い
<i>tʰok + kar</i> (WT: <i>thod dkar</i>)	額+白い	額が白い
<i>rŋa + gar</i> (WT: <i>rŋa dkar</i>)	尻尾+白い	尻尾が白い
<i>doŋ + gar</i> (WT: <i>gdong dkar</i>)	鼻筋+白い	鼻筋が白い
<i>loŋ + hkar</i> (WT: <i>long dkar</i>)	腹+白い	腹が白い
<i>sʰək + kar</i> (WT: <i>sug dkar</i>)	足+白い	足が白い
<i>sʰok + kar</i> (WT: <i>sog dkar</i>)	肩+白い	肩が白い
<i>rdzə + gar</i> (WT: <i>rdzi dkar</i>)	眉+白い	鼻筋の一部に白い点がある

⁵ *ra* 以外の部分である *mdzək*, *hjon*, *ŋa* が接辞化して基本色の1音節に接続する例もみられた (*ka-mdzək* 「顔が白く、角が垂直方向にまっすぐ伸びたヤク」、*ka-hjon* 「顔が白く、角が片側に曲がったヤク」、*rok-ŋa* 「黒くて角が寝ているヤク」など)。これについては調査が不十分なため本稿では扱わない。

図4 ヤクの体の模様の位置に関わる表現



「白い顔で目の周りが黒い」という。

表5、図4中のその他の表現は全て、「身体部位+白い」という構成で成り立っている。

ヤクの体の模様の位置に関わる表現を図4にイラストで示す。

3.5 体の大きさに関わる表現

同じような特徴のヤクを呼び分ける場合に、それらのヤクの相対的な大きさにしたがって呼ぶことがある。体の大きさについては単語によって表す場合と、-dan (ー大きい)、-dan-nga (ー大きいー名詞化接辞)「大きいもの」という接辞(連続)によって表す場合がある。

te^{hi}-wo (WT: che bo)、または、-dan、-dan-nga (WT: sdang, sdang nga)「大きいもの」、ndannga-wo (WT: 'bring nga bo)「中ぐらいのもの」、te^{on}-wo (WT: chung bo) または tse-pa (WT: tses pa)「小さいもの」といった単語、接辞を付加して呼ぶことがある。

例えば nak-t^{ho} (黒いー角なし)「黒くて角なしのヤク」という特徴をもった雌のヤクが3頭いて、これらを呼び分ける場合、nak-t^{ho} te^{hi}-wo「黒くて角なしの大きなヤク」、nak-t^{ho} ndannga-wo「黒くて角なしの中ぐらいのヤク」、nak-t^{ho} te^{on}-wo「黒くて角なしの小さなヤク」と呼び分けることがある。

-daŋ (一大きい)、-daŋ-ŋa (一大きい一名詞化接辞) は接辞であり、基本色の 1 音節に後続して用いられる。例えば、ŋo-daŋ (灰色一大きい) 「灰色の大きなヤク」、ŋe-daŋ-ŋa (4 色のまだら一大きい一名詞化接辞) 「4 色のまだらの大きなヤク」のように用いられる。

3.6 群れの中での役割に関わる表現

ヤクは飼われている群れの中で、労働、繁殖、搾乳、出産、宗教などの観点から様々な役割を担う。表 6 には、これまでにみつかった役割に関する名称を示す。

労働としては荷駄を運ぶ、人を乗せるという役割があるが、荷駄運び用のヤクには 2 種類の表現があり、実際に荷物をつけている場合は k^halma、荷物をつけていない場合は ŋama と呼ばれる。

繁殖に関する役割としては、種つけや妊娠、出産に関わる役割がある。種つけ用のヤクは woxxa と呼ばれる。種つけ用のヤクは 12 歳以上になると去勢をされ、種つけから引退する。その個体は abdu と呼ばれる。妊娠、出産に関わる名称には、wima 「妊娠中のヤク」、hteanno 「不妊のヤク」、k^hamtho 「高齢のため妊娠しないヤク」がある。雌ヤクは出産後の 2 年以外は乳を出さないため、これらは搾乳に関わる特徴でもある。出産後に母ヤクが死亡した場合、その仔ヤクは k^habda と呼ばれる。雌ヤクは通常、2、3 年ごとに 1 頭の仔ヤクを出産する。双子で生まれた場合にはその双子は mts^hema と呼ばれる。

搾乳、出産に関する役割は、zonma 「乳搾り用のヤク」と ɕaɕel 「授乳中の母仔を除くヤクの総称」に大きく分かれる。雌ヤクのうち乳を出さなくなったものの総称は hkamba、年齢に応じて t^huhkam または nɔ^hɔhkam と呼ばれる。乳を出す雌ヤクの中には、c^hənma 「0 歳ヤクの母」、jama 「1 歳ヤクの母」、nɔ^hɔji 「仔ヤクを亡くした母ヤク」がいる。仔ヤクを亡くした母ヤクの場合、他の雌ヤクから生まれた仔ヤクに乳を与えることによって催乳され、搾乳が可能になる。自分の母と nɔ^hɔji から乳を飲む 0 歳ヤクを nɔ^hɔte^ha という。

宗教的な役割を担ったヤクには、死ぬまで命を絶たないことを約束された、ts^het^har 「放生されたヤク」と cowo 「山神に捧げられたヤク」、gonhjak 「寺に捧げられたヤク」がある。

表6 ヤクの群れの中での役割に関わる表現

k ^h alma (WT: khal ma)	荷駄運び用のヤク (荷物をつけている状態)
nama (WT: sna ma)	荷駄運び用のヤク (荷物をつけていない状態)
nalo (WT: sna lo)	乗用のヤク
woxxa (WT: bag ha)	種つけ用のヤク
abdu (WT: a bdu'u)	高齢のため引退した種つけ用のヤク
wima (WT: be'u ma)	妊娠中のヤク
hteanmo (WT: spyen mo)	不妊のヤク
k ^h amt ^h o (WT: kha mtho)	高齢のため妊娠しないヤク
k ^h abda (WT: kha bda')	母ヤクのいない0歳ヤク
mts ^h ema (WT: mtshe ma)	双子のヤク
zonma (WT: bzhon ma)	乳搾り用のヤク
çaçel (WT: sha shed)	授乳中の母仔を除くヤクの総称
hkamba (WT: skam pa)	乳を出さなくなった雌ヤクの総称
t ^h uhkam (WT: thul skam)	乳を出さなくなった4、5歳の雌ヤク
nđəhkam (WT: 'dri skam)	乳を出さなくなった6歳以上の雌ヤク
c ^h ənma (WT: khyun ma)	0歳ヤクの母
jarma (WT: yar ma)	1歳ヤクの母
nđaji (WT: 'dra yas)	仔ヤクを亡くした母ヤク
nđate ^h a (WT: 'dra cha)	自分の母ヤクと、仔ヤクを亡くした母ヤクの2頭から乳を飲む0歳ヤク
ts ^h et ^h ar (WT: tshe thar)	放生されたヤク
əowo (WT: gshol bo)	山神に捧げられたヤク
gonhjak (WT: dgon g.yag)	寺に捧げられたヤク

3.7 性格に関わる表現

ヤクの中にも、気性が荒いもの、穏やかなもの、頑固なものなどいろいろな性格のものがいる。これらの性格を表す表現によってヤクを呼び分けることもある。表7にその一覧を示す。

性格的特徴は家畜管理とも密接に関係している。例えば、rəçor「放牧中に逃げ出すヤク」、donji「人を角でつつくヤク」、kemteen「言うことを聞かない

表7 ヤクの性格に関わる表現

rəçor (WT: ri shor)	放牧中に逃げ出すヤク
donji (WT: rdung yas)	人を角でつつくヤク
kemteen (WT: gem can)	言うことを聞かない頑固なヤク
k ^h erndək (WT: kher 'dug)	他のヤクと群れずに一頭だけで行動するヤク
eenmo (WT: zhan mo)	おとなしいヤク
k ^h ahtoteen (WT: kha lto can)	食いしん坊なヤク
ojol, ojo-ko (WT: 'o yod, 'o yod ko)	乳がよく出るヤク
omel, ome-ko (WT: 'o med, 'o med ko)	乳があまり出ないヤク
nəhkən (WT: nu rkun)	自分の母以外から乳を盗み飲むヤク
dzərguma (WT: rdzi rgod ma)	人間の搾乳を足で蹴って邪魔する雌ヤク
雄の場合 hjo-htea-wo (WT: g.yo skya bo)、 雌の場合 hjo-htea-ma (WT: g.yo skya ma)	怠け者のヤク

頑固なヤク」、k^herndək「他のヤクと群れずに一頭だけで行動するヤク」などは、人間の側から見ると、家畜の群れを管理する上で都合の悪い存在である。したがって、これらの性格のヤクは優先的に屠畜されたり売られたりする。逆に、eenmo「おとなしいヤク」は群れ管理の観点からは好ましい存在である。k^hahtoteen「食いしん坊なヤク」というのもいる。食いしん坊なヤクは、テントの中に入り込んで人間の食べ物や、犬の餌を盗んだりすることはあるが、雌の場合は餌をよく食べることは乳の出がよくなることにつながるため、好ましいものと考えられている。乳の出方に関する性質としては、ojol, ojo-ko「乳がよく出るヤク」、omel, ome-ko「乳があまり出ないヤク」という表現がある。nəhkən「自分の母以外から乳を盗み飲むヤク」、dzərguma「人間の搾乳を足で蹴って邪魔するヤク」という表現もある。

3.8 複数の特徴の組み合わせ

§3.1-§3.7では、ヤクを呼び分ける単語を特徴別に記述したが、これらの要素は単独で用いられるだけでなく、組み合わせで用いられることもある。様々な特徴の組み合わせが可能であり、各要素がおおよそ(1)のような順番で現れるようである。ただし、これらの特徴が全て現れた例は未見であり、現段階

での調査が不十分であるため、(1) は修正の余地がある。模様の位置、角の形状、体の大きさ、性格を同じ位置に示しているが、これらが共起する例が調査で得られなかったため、正確な順番はわかっていない。今後聞き取り調査を通して明らかにしていきたい。

模様の位置を表す要素のうち、ka- のみは、「色」と同じ位置に現れる（例は (8)）。

- (1)

以下に組み合わされる要素の数ごとに例を示していく。

3.8.1 組み合わされる要素が2つの場合

調査の際に最もよく耳にしたのは、基本色の1音節に角の有無を表す接辞 -laŋ 「角あり」、-tʰo 「角なし」を接続させた表現である。sher-laŋ 「黄色い角ありのヤク」、ŋo-laŋ 「灰色の角ありのヤク」、te^ha-tʰo 「白と黒のまだらの角なしのヤク」、nak-tʰo 「黒い角なしのヤク」といった表現が使われている。

要素が2つ組み合わされる例には、色と模様の組み合わせ（例は (2)）、色と大きさの組み合わせ（例は (3)）、色と角の形状の組み合わせ（例は (4)）もみつけた。

- (2) rokrok tʰok + kar
 黒い（角あり） 額＋白い

 「黒くて額の白い角ありのヤク」
- (3) karhkar ndaŋŋa-wo
 白い 中くらいの－名詞化接辞

 「白くて中くらいの大きさのヤク」
- (4) te^hate^ha tʰolo
 白と黒のまだら 角が短い

 「白と黒のまだらの角が短いヤク」

3.8.2 組み合わせられる要素が3つの場合

§3.8.1で示した、基本色の1音節に角の有無を表す接辞を付加した表現の前に、年齢・雌雄に関する単語を前置した表現もよく使われる。

- (5) jarə tɕʰa-laŋ
 1 歳ヤク 白と黒のまだら一角あり
 [年齢] [色] [角の有無]
 「白と黒のまだらで角ありの1歳ヤク」
- (6) wi nak-tʰo
 0 歳ヤク 黒い一角なし
 [年齢] [色] [角の有無]
 「黒くて角なしの0歳ヤク」
- (7) tʰuma rokrok tɕʰi-wo
 4、5歳の雌ヤク 黒い(角あり) 大きいー各詞化接辞
 [年齢・雌雄] [色] [大きさ]
 「黒くて角ありの大きい4、5歳の雌ヤク」
- (8) rokrok ka-laŋ
 黒い 白い顔一角あり
 [色] [模様] [角の有無]
 「黒くて顔の白い角ありのヤク」
- (9) ka-laŋ rəçor
 白い顔一角あり よく逃げる
 [模様] [角の有無] [性格]
 「顔の白い角ありのよく逃げるヤク」

3.8.3 組み合わせられる要素が4つ以上の場合

通常、4つ以上の特徴が組み合わせることは多くはないが、似たような特徴のヤクが多い群れの中である個体を識別しようとする際には4つ以上の要素が組み合わせられた以下のような長い表現が用いられる(例は(10)、(11))。

別の部位の模様は2つ続けることも可能である(例は(11))。

- (10) jarə tɕʰa-tʰo doŋ + yar
 1 歳 白と黒のまだら一角なし 鼻筋+白い
 [年齢] [色] [角の有無] [模様]

「白と黒のまだらで鼻筋の白い、角なしの1歳ヤク」

(11) jarə	rok-tʰo	tʰok + kar	shək + kar
1歳	黒いー角なし	額＋白い	足＋白い
年齢	色 角の有無	模様	模様

「黒くて額と足の白い、角なしの1歳ヤク」

3.8.4 母ヤクの特徴を用いた表現

仔ヤクの場合、その母ヤクの特徴を用いて呼ぶ場合がある。仔ヤクは角が生えていたとしてもまだ小さく、毛にも模様がはっきり現れていないため、仔ヤク自体の特徴で呼びわけにくいためであると考えられる。

(12) tʰuma	rokrok	tʰok + kar = kə	wilə
4、5歳の雌ヤク	黒い（角あり）	額＋白い＝属格	0歳ヤク
「黒くて額の白い角ありの4、5歳の雌ヤクの、0歳の仔ヤク」			

3.9 呼び分けの原理

各特徴毎に様々な名称をもつヤクではあるが、ヤクは人間のような固有名詞はもたない。つまり、複数の特徴を組み合わせた名称を含め、上述の名称は、各々のヤクに与えられた固有の名前というわけではない。逆に言うと、ヤクは常に同じ名前と呼ばれるわけではなく、その名称は、呼ぶ人によっても、場面によっても異なる。

一例を挙げれば、図5のヤクを同じ人間が呼ぶ場合にも、ka-tʰo「顔が白くて角なしのヤク」と呼んだり、wilə tɕʰa-tʰo tɕʰoŋ-wo「白と黒のまだらの角なしの小さい0歳ヤク」と呼んだりする。ka-tʰoであるのか、tɕʰa-tʰoであるのかは、どこに着目するかで異なってくる。顔が白いことに注目すればka-tʰoと呼び、足にも白い模様があるので、全体的にまだらだととらえればtɕʰa-tʰoとなる。

ka-tʰoのような基本色の1音節と角の有無からなる短い名前は、例えば、数人の女性が乳搾りをしている場面で、あの仔ヤクを連れてきてほしいというような場合で使われたりする。実際に同じ群れの中にka-tʰoと呼ばれうる同じ特徴をもった仔ヤクが複数いたとしても、その現場にいる人にはどのヤクを指しているのかだいたい検討がつく。そのため、このような2つの特徴を組み合わせた短い名称で呼んでも、その状況からどれを指しているのかが分かるため問題ない。しかし、あるヤクが群れからはぐれてしまった場合などは、複数の特

図5 顔と足が白い0歳ヤク



徴を組み合わせた長い名前と呼ばれるようである。ヤクがいなくなってしまう場合には、言語表現だけでその一頭を特定しなければならない。その場合、群れの中でその一頭を特定できるように、複数の要素を組み合わせる必要がある。群れが大きく、同じ特徴のヤクが多ければ多いほど組み合わせられる要素の数が増えるという。

4 まとめと今後の展望

以上、アムド・チベット語におけるヤクの呼び分けの語彙について、各特徴別に記述を行い、それらの特徴がどのように組み合わせるのか、そして、どのような原理で呼び分けが行われているのか述べてきた。現時点での包括的な記述を試みたが、組み合わせについてはパターンが多いため網羅し切れておらず、順番も確定できていないので、さらなる調査が必要である。

「はじめに」において、家畜に関する語彙がアムド・チベット語の民俗語彙であることを述べた。本稿では1つの地域における家畜の呼び分けの体系を示したにすぎない。牧畜文化が急速に失われつつある中で、このような文化特有の語彙体系が各地で記録されることは言語記述の観点から、そして文化の保存・継承の観点からも非常に重要である。本稿がその一助となれば幸いである。

参考文献

[藏文]

Gangs ljongs shes rig nor bu'i gling (編) (2013). *Dmangs khrod rgyun bkol tha snyad phyogs bsgrigs*/《藏语常用词汇》兰州：甘肃民族出版社。

Tshul khrim blo gros (主編) (2016). *Bod kyi srol rgyun tha snyad ris 'gel ming mdzod/ stod cha*/《藏族传统词图解词典》上卷。成都：四川民族出版社。

[中文]

格桑居冕、格桑央京 (2002). 《藏语方言概论》。北京：民族出版社。

泽库县志编纂委员会编 (2005). 《泽库县志》北京：中国县镇年鉴出版社。

周毛草 (2003). 《玛曲藏语研究》北京：民族出版社。

[日文]

海老原志穂 (2008). 青海省共和県のチベット語アムド方言。博士学位論文：東京大学。

海老原志穂 (2016). チベット人はヤクをどのように認識しているのか？ 星泉・海老原志穂・大川謙作・三浦順子 (編) 『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』第3巻、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所：12-18頁。

海老原志穂 (2017). ヤクの名は。 *FIELDPLUS*. No. 17 : 6-7頁。

西義郎 (1986). 現代チベット語方言の分類. 『国立民族学博物館研究報告』第11巻4号：837-900頁＋1地図。

[欧文]

Bielmeier, Roland. (In preparation). *Comparative Dictionary of Tibetan Dialect*. (updated February 2008).

Chos bstan rgyal. (2014). *Following the Herds: Rhythms of Tibetan Pastoral Life in Amdo*. Asian Highlands Perspectives 32.

Tournadre, Nicolas. (2014). The Tibetic Languages and their Classification. In: Thomas Owen-Smith and Nathan W. Hill (eds.) *Trans-Himalayan Linguistics Historical and Descriptive Linguistics of the Himalayan Area*. Berlin: Mouton de Gruyter. pp. 105-129.

Wiener, Gerald, Jianlin Han and Ruijun Long. (2003). *The Yak* (2nd edition). Bangkok:
Regional Office for Asia and the Pacific, Food and Agriculture Organization
of the United Nations.

海老原 志穂（えびはら しほ）
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
（ジュニア・フェロー）

岩尾一史・池田 巧（編）
『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』
京都大学人文科学研究所 2018年3月刊
